

THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

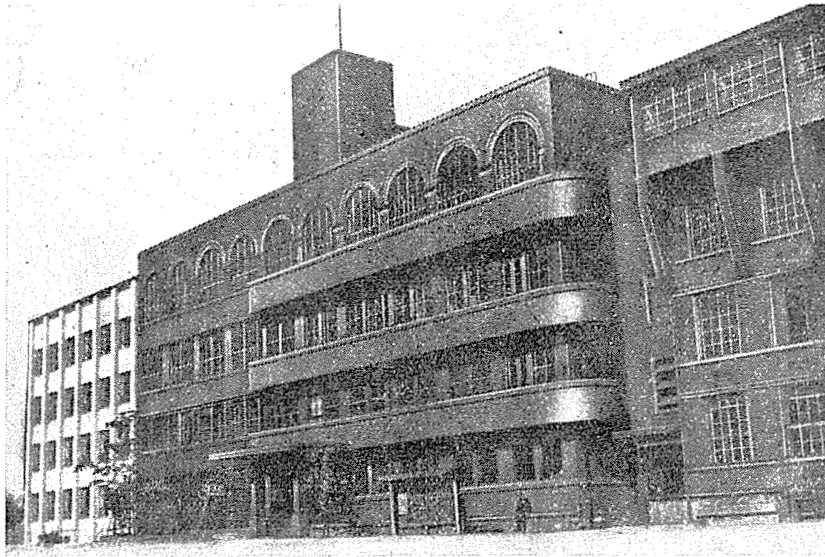
Osaka, February, 15th, 1954. No. 266

關西大學學報

第 2 6 6 号

昭和 29 年 2 月

校友会特集



關西大學校友會本部

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
通卷第二六五号
昭和二十九年二月十五日發行（每月一回十五日發行）

關西大學學報局



私学としての大学と校友会

関西大学 学 長
関西大学校友会 長

法学博士 岩 崎 卯 一

関西大学は、創立時代から今日まで、つまり約七十年間、「私学」として終始してきたので、全国民や一定住民の納附する租税で経営され、一般国民に解放されている官公立大学とは、はじめから異つてゐる。だから、「私学の本領」がどこにあるかという根本的な特質を理解し得ないで、強大な権力と豊富な財力とを背景にしながら発展を遂げて来た少数の国立綜合大学の経営方針を模倣し追隨して行けば、わが関西大学もまた、どこまで行つても「本格的の大学」にはなり得ないであろう。たとひ今日までの私学の大多数が、有力な官立大学に進学し得なかつた落武者群を收容して、セコンド・ベストの教育機関たるに甘んじていたとしても、わが関西大学だけは、こんな種類の私学ではなかつたはずであるし、またこんなものであつてはならない。

それでは、「私学」としての関西大学の特色を、どこに見出すことができるであろうか。わたくしの考によると、「大家族主義」こそが、わが大学を特色づける第一のものである。

大家族として関西大学は、血縁共同社会にも似た構造を持つてゐる。明治十九年の本学創立時に入學し明治二十二年に卒業した十七名の第一回卒業生達から、本年つまり昭和二十九年三月に卒業の榮を狙う二千人の卒業生達まで、わが学園を築立つた校友約四万人は、すべて、関西大学という一大家族の諸成員である。それは、親と子との関係であり、兄と弟との連結であり、祖先と子孫との縁である。したがつて、母校を後援する数万の校友達と母校のうちにある一万の学生達とは、ひとしく「関大一家」の維持者である。かつて慶応大学は、「祖父も父も子も共に塾の出だ」

と言つて誇つていた。ところが、今やわが大学にもまた、「三代つづいて関大へ」という事例が現われはじめた。こんな言葉が、関大学園の内外でしばしば聞かれるのは、はたしてわが大学の耻辱であらうか。これは、関大歌第一節の末句にある「関西大学一ながき歴史」の示すように、七十年という長い母校史の結果である。

大家族としての関西大学は、運命共同社会の性格を持つてゐる。国立諸大学が、これまで比較的の高い評価を与えられていたのは、それらが国營であるということよりも、そこに甚だしく劣弱なものがなかつたという点に基くことが多い。これに反し、私立諸大学に対する一般の評価が厳しかつたのは、私大相互の間における優劣の差が甚だしかつたからである。実際、私立大学の運命は、激しい生存競争の渦のなかにまきこまれてゐる。油断をすると、忽ちのうちに、顛落の憂き目を見るのである。校舎が整わず、設備が貧しく、教授が研究を怠り、学生が学習を軽んじ、卒業生が母校を顧みないと、私立大学の前には、ただ没落の運命が待つてゐるだけである。この悲しい運命を「わがもの」として痛心するのは、第一に校友達であり、第二に学生達である。国立大学の運命は、政府を中核とする国家が常に分担してゐる。だが、私立大学の運命だけは、その大学を「家族」と視る成員が、全面的に負担するのである。だから、私学としての関西大学を、一流の大学にするのも四流の大学にするのも「関大一家」の努力如何にかかつてゐるのである。「関大一家」を形成してゐる大学と校友会との協力なくしては、私学としての関大の興隆は、到底覚束ない。

第二六六號

(校友会特集)

目 次

私学としての大学と校友会	岩崎卯一	(2)
所 感	白川朋吉	(3)
校友会役員の一		(3)
校友会四学部委員長所感		(4)
校友会について		(5)
校友会支部		(6)
校友会役員の一		(8)
職 域 会		(8)
同期生会		(9)
支部		(10)
職域だより		(10)
同期		(10)
最近十五年の校友会を顧みて	長柄金吾	(19)
校友抜き書		(21)
設立進捗中の支部紹介		(22)
推薦校友とは		(22)
校友会入会式挙行		(22)
関係校友会		(22)
校友会々則		(23)



所 感

関西大学理事長 白川 朋吉

終戦後学制改革の際我が関西大学は、直ちに新制大学に組織更えを行い、また大学院を関西で最初に設置するなど、教育機関として名実共に完備した学園を形成し、日に新に発展の一路を辿つておりますことは、まことに御同慶の至りに堪えません。

殊に創立七十周年を明年に迎える今日、発展せる関西大学を見てうたゝ感無量なものは唯に創立当本学に学んだ私のみでなく、創立以来今日まで関西大学に学ばれた校友諸氏におかれても感を同じうせられるであらう。然し伝統ある大学の教育政策を継承して、学問の発展と時代の進運とに即応する教学の突を更に飛躍的に挙げるためには、異常なる決意と努力を要する問題が山積して居るのであります。一言にして之を云えば、我が母校の前途は多難であります。特に大学の真価を決定づける教授陣の質量の強化と教育研究の物的設備の拡充を同時に解決せなければならぬ点に多大の困難が横たわつて居るのであります。然し是を同時に解決せなければ本学の発展はあり得ません。教授陣の質量の強化は優秀教授の招聘、学外研究員の派遣、助手副

手制度の拡充強化。研究費補助。圖書の拡充整備等をその内容とし、教育研究の物的設備の拡充は天六校舎の増築、第一高等学校の移築、尙志館の増築、研究室の増設、学生寮の増築、千里山学舎の大増築、図書館の増築等をその内容とし、尙此の兩者を含めての重要問題である職員の待遇改善問題、更に校友と母校との心的連絡の根柢たる校友会館問題をその内容としています。而も是等は緊急を要するものでありまして健全なる本学の財政に三億円余の借金を加えざるを得ない原因であり又五千万円の淨財の喜捨に待つ所以でもあります。

もとより昨年末校友諸氏の御推挙により就任いたしました理事長という重職にある私としましては万策を講じて大学発展のため微力を傾倒いたしますが、何卒校友諸氏におかれましても、母校のため、明日の関西大学のため、能う限りの御援助と御尽力とを賜りますよう御願いたしたいと存じます。特に本年学窓を巣立つ新校友諸氏が清新潑刺の氣を校友会に吹込み母校発展の支柱たらんことを切望してやまないであります。

校友会役員の衆り

会 長

岩崎 卯一 大4専法
米国コロ
ンビヤ大 関西大学学長

副 会 長

三好 万次 大4専法 近畿車輛副社長

久井 忠雄 昭6大法 関西大学専務理事

長柄 金吾 昭12大経
弁理士 計理士、税理士

常 議 員

(五十音順)

阿部 甚吉 梅原貞次郎 大月 伸

大石雄一郎 大島 武夫 織田佐代治

神屋敷民蔵 河内 兼三 樫本 信雄

加藤 昌秀 寒川 喜一 桂 忠雄

木原 繁実 国分 吉広 佐伯 五郎

角田好太郎 高橋 節治 寺西 武

中務 平吉 長沢 健一 長柄 金吾

西本 寛一 西村治三郎 原田鹿太郎

春原源太郎 久井 忠雄 前田 軍治

三島 律夫 森川 太郎 安井 章吾

関大校友會の

再建を願う

学部一部学友会代表四年次

播磨 莊一郎

終戦後、各私立大学に於て校友会の再興に全面的な努力を尽し、特に関東地方の有名大学の校友会の発展は大きく母校関大が七十周年を迎えて、益々大学としての真価を發揮しようとして居る現在、校友五万近くを数え乍ら、健全な校友会の躍進を觀ることが出来ないことを思う時、関大卒業生の多数の先輩、或は、今年母校を飛び立つ私達としても淋しさを感じさせられること、思う。

近日、母校の発展と校友会の躍進を願う関大関係者が天六に集つて、種々討議した結果、校友と在校生との和合が無いところに問題が存在して居る点、校友諸先輩が校友問題を輕視して居た点等が中心に成つて、これからの校友会の方針を二三造つたのみで、矢張り、新しい卒業生の結合に依つて母校の発展と校友会の躍進を計らなければならぬことを、当出席者として強く感じた次第である。

校友会組織、財政、会館問題等も新鮮なエネルギーの結合に依つて、停滞している校友会を盛り上げなければならぬと思う。従つて、卒業日を迎える関大卒業生諸兄弟も是非共、これらの校友会再建に協力し、母校に対する強力的外部開

体として、未来に向つて限りなき發展を続ける様、私は学友諸兄弟に呼びかける次第である。

学部二部学友会

書記長 杉本末広

四年間の螢雪の功なつて、梅花咲き乱れる、今日芽出度く学窓を巣立られる諸兄に對して熱烈なる友情を以て激励の言葉をお送りしてお祝ひの言葉に致します。

諸兄は卒業と同時に校友会々員と自動的に移行して私達在学生の先輩として校友会の發展、引いては学園の發展を期する為に積極的な校友会参加を行つて建学の精神になつた学園の復興に努力して頂きたい、そして私達在学生と共に手を結んで学園の自由、自治の精神を日本国民の精神に広めるべく頑張らませう。其の校友会活動の根底をなす財源を在学生の授業料負担による事なく独自の諸兄自身の為の校友会とすべく財源の確立に御努力をお願い申し上げる次第であります。

最後に実社会への門出に際して、未来を信じ、未来に生きる事が学生の生命である事を心に銘記して何時迄も忘れず人類の幸福に資される様お願いすると共に諸兄の御多幸を御祈り申上げます。

短期大学部一部学友会

委員長 小田雅亮

此度「校友会だより」を「学報」に出

すと云う企てがあり、それが早速にその緒についた事は何と云つてもよろこばしい。

本学園には善悪は別として三の「放し」の伝統がある様に聞いています。即ち「教へ放し」

学が放し

卒業し放し」故に関西大学に關係ある人はこの問題についてもう一度じっくりと反省する必要がある様に思われます。

昨年来より度々校友会發展の為の準備会も在学生を含めて先輩代表や各役員の方々と三者が一貫となつて準備が進められてゐます。此事は関西大学にとつても大きな進歩と云はねばなりません。

併し何事に於てもその始めは興味と熱意から張切つてゐるものですが段々気分が衰えて禿頭蛇尾に終るものであるから此の度の事も此の事に關係のあるなしに拘らず先輩諸兄と一致団結して皆大いに頑張つて有終の美を飾るうではありませんか。

会の内容は生命故、出来るだけ立派なものがあるが、かくして盛られたものは腹から出た熱のあるものが好ましい。そして形式ばかりで価値づけるよりも「心の結団」即愛校の發露にして価値づけるものであつて欲しい。

幸い兄弟ばかりの集い故和衷協同の氣魄が浪うつてゐる為に目的彼岸に達する事も困難な事ではあるまい。此が又潑刺

たる関西大学学園氣風の育成にも役立つ事に思ひます。

「萌え出でた若芽よ風雪をしのいですくすくと天まで伸びよ」

短期大学部二部学友会

委員長 伊藤喜代広

卒業年度ともなれば誰しも学習の計画を立て着々と実行していく。しない迄も二月の聲がかゝれば目の色を変える。これが常識である。併し此の常識という二字の中には、かくしきれない卒業という喜びをふくんで居る。我々は一ヶ月有余で現実的には此の学び舎を去る。そして歴史の深い関西大学の校友会の一員となる訳………良く聞く言葉であるが「学生時代は実に楽しかつた、学生時代が恋しい」云々成程たのしかつたには違いない。併しそう話している時は、自分が学んだ学校、学友を失つているのかも知れない、卒業にして真にながりを持つべきが今からの大学の在り方ではないでしようか、先生方は無論の事だろうと思ひますが私も何時いつ迄も諸兄と御つきあい願ひたい。関西大学校友会会員としてがつちりと手を、心を結びあひ全国に我関大の校友網をはりめぐらそうではありませんか。

四万数千の校友となる喜びを胸に秘められた、諸兄の協力によつて我等の校友会活動の活潑化を希うものである。

校友会について

校友会は、明治二十二年第一回卒業生を迎えたのが嚆矢で、同二十五年校友会々則の成文なり、同三十年十二月十八日、北区菅原町相生楼で催された発会式により確立された。

草創期の校友会には、その業績に関する文献は無いが、主として大阪近辺在住の校友懇親会に過ぎなかつたようである。

斯くて大正四年に至り、始めて会員名簿の刊行を見たのであるが、その形体は校友会員校友会名簿としての合冊であり其の形式は昭和五年まで続き、而して是を学生其他に配布していたのである。又大正十一年千里山学報（後に関西大学々報と改題）の発行せられるに及び校友彙報なる特別欄を設けてその動静が報ぜられるようになった。

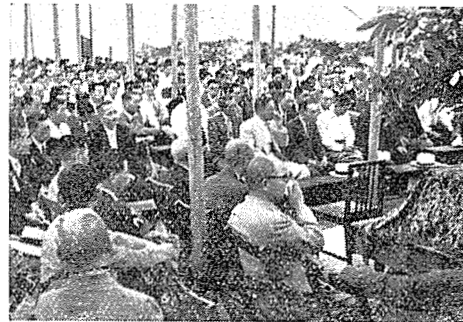
其の間昭和二年、啓明倶楽部の発起で、校友新聞の発行をみたことがあつたが、これは間もなく中絶した。同五年校友会員名簿の単独刊行となつて今日に至つてるのである。又、卒業式当日は、恒例として校友会春季大会を開くこととし、新卒業生の歓迎を兼ね、毎年中之島の大坂ホテル又は中央公会堂で、役員教職員、新旧校友の一大交歓を図つた。尙同十五年機関誌「校友会誌」第一号、第二号を刊行したが、戦時国策に副い廃刊の憂き目をみた。学報も同十九年三月を以て、機関誌同様廃刊となつたが、爾後幾回か苦心をして発行をしたことがある。

昭和十三年二月、校友会活動の資源である会員の年会費は金参円、終身会費金五十円と規定されたが、その後、会費は金百円、入会金百円と変更され、納入者に会務を報道し、大会を開催、学報、名簿等を送付して名実共に校友会の体をそなえて来た。然るに不運にも第二次大戦の勃発に見舞われて校友は続々と応召

し、学生も学徒出陣の壯行会を卒業、式に替えて、外地に遠征し、会費の納入はおろか、其の住所すらも不明者多数となつた。

戦後校友会活動は、再建企画を持ち乍ら、物資不足其他の悪条件に陥されて停頓、十年間を空白とし、歲月は流れたが、折柄学制改革に依り、私立学校法の制定公布なるや、本法人の組織も「学校法人関西大学」と改められ、やがて選任せられた新役員―母校当局の絶大な援助により、昨廿八年三月、全国校友に呼びかけ、苦心慘澹して、B五判五百頁の校友会々員名簿が刊行された。

次いで六月には、千里山学会に於て、校友總會、地方支部長會議を開催、其の懇親を図り、千有余名の参加を得て、校友会復興運動を本格的に開始した。其の後代議員二百九十四名、常議員三十名副会長三名の新役員を決定、常議員會、各種委員會を開くこと十數回、將來の計画等に付、審議を重ね、会則改正案、校友会入会式の復活挙行、校友会章（バッヂ）の制定等をした。



昭和28年度校友總會

現会則では、新たに、会員資格を学校法人関西大学の設置する学校の卒業生とした結果、傘下の関甲、二商、一高、一中等の卒業生を含め、実にその校友数は四万五千名を算するに至つた。現在、別記の通り地方支部を四十四、職域、同期生の会を五十二部会持ち、

大阪を中心として、北は北海道より、南は鹿児島に至る各所に、校友は分布し、その職域も政治、法曹、教育、宗教、実業、芸能等あらゆる各界に及んで活躍している。

本大学役員（理事、監事、評議員）も亦、校友たる資格に基いて、大部分の人々が就任している次第である。

校友会の將來は、より以上に支部の設置を念願、尠くとも一府県一支部以上を持つことに邁進し、近く大阪市内に堂々たる校友会館（金五百万円積立金）を開設して、校友活動の基盤とする。即ち懇親、就職、結婚その他の慶弔に就き事務を行い、地方支部会員の宿舍を提供する等々……。尙学報の配布、校友名簿の発刊、校友機関誌の編纂を企画し、学園拡充事業に協力、明三十年十一月には創立七十周年記念大会を開催して、母校関西大学の隆盛に寄与せんと目下着々進行中である。

但し、その活動の源泉たるは、校友会維持費であつて、企画活動の成否は、校友各位の会費納入成績如何に係るものである。資金なくして、各種事業を行ない得ないことは、言う迄もない。

納入された会費の使途は、數万校友に對する通信費、事務消耗品費、校友大会費、地方支部長會議費、支部補助金、学報代及びその送料、名簿発行費、校友会館維持費等に支出されるのであるが、現会則では遺憾乍ら、収入源の会費金額が規定されていない。斯くては会の運営並びに企画方針等に支障を来すので、会則改正委員會を設け、慎重審議の結果、去る一月廿八日の常議員會に於て、別記会則案の通り会費、入会金を制定し、早急代議員會及び總會に提案する運びとなつた。

旧い校友は云はずもがな、近く卒業せられる学生諸氏は特にこの間の事情を十分御察の上、右会則案に従がい、卒業式直後行かう校友会入会式の会員章交附までに、会費及び入会金の納付をお願いして、本会目的遂行に協力せられる様、衷心より期待して已まな

神戸支部 (神戸市生田区多開通二の二四) 山崎敬義方) 電元町 四六九・二二六六七
 支部長 山崎 敬義 大14大法 日本公証人連合会監事
 副支部長 向井 裕亮 昭7専商 神港建設KK取締役社長
 同 星野 正身 昭5大法 兵庫県庁土木部庶務課
 同 水本 信夫 昭7専法 弁護士
明石支部 (明石市相生町一の一三六) 片山元藏方) 電明石 三二一〇八
 支部長 片山 元藏 大11専法 弁護士
 副支部長 尾島 登雄 昭3専法 眼鏡万年筆商
姫路支部 (姫路市西新町一三七) 田中吉次郎方) 電七二六
 支部長 田中 吉次郎 大14専商 金物卸商
 副支部長 滝 利幸 昭10専二法 姫路食品製造KK社長
 同 吉松 須賀根 昭4大経 播磨造船所安全管理室
京都支部 (京都市上京区紫野上柳町一〇) 荒賀勝平方) 電西陣 六八六八
 支部長 神戶 正雄 大6専法 弁護士
 幹事長 荒賀 勝平 京大名誉教授・元本学々長
滋賀支部 (滋賀県蒲生郡八幡町魚屋町上二番) 宮尾一郎方) 電近江八幡 一七三
 支部長 信正 義雄 大11専法 公証人
 副支部長 上田 啓次 大11専法 公証人
奈良支部 (奈良市水門町戒壇院前) 吉田孝雄方) 電奈良 五五六八
 支部長 高橋 正次 推 薦 奈良市長 弁護士
和歌山支部 (和歌山市十一番町八、宮嘉産業内) 電和歌山 二〇三二
 支部長 高垣 善一 昭14大法 和歌山市長
 副支部長 正田 義春 昭10大法 和歌山ライトモーターKK
 幹事長 小堀 欣二 昭10専一商 安田火災和歌山営業所
北海道支部 (札幌市大通西十二丁目) 中田克己知方) 推 薦
東京支部 (東京都太田区入新井三の一四三) 福田繁芳方) 電大森 二九九七
 支部長 福田 繁芳 昭2専法 衆議院議員、流山電機重役
 副支部長 香西 政一 大15専商 野村証券浅草支社長
 同 安田 日出男 大15専経 理研映画常務取締役
富山支部 (魚津市新町二五) 安田倫藏方) 電魚津 一三七
 支部長 古屋 東 昭45専法 弁護士
 副支部長 栗山 基一 昭3専法 富山司法事務局長
石川支部 (金沢市小將町中の一の二三) 中西与七方) 電明42専法
 支部長 中西 与七 昭42専法

福井支部 (小浜市広塚八三内藤哲志方) 電小浜 三四七
 支部長 藤 哲志 大10専法 弁護士
名古屋支部 (名古屋市中東外堀町二の四) 宗本利市方) 電東二 二六〇八
 支部長 宗本 利市 大7大法 弁護士
鳥取支部 (鳥取市西町六三) 泉沢澄方) 電鳥取 三三七七
 支部長 泉 沢澄 昭5専商 税理士、計理士
 副支部長 赤嶋 安二 昭21大経 倉吉農業高校
 同 富沢 龜吉 昭3専法 米子鉄道管理局公安課長
岡山支部 (岡山市津島福井二二二) 神崎傳次郎方) 電岡山 八九〇八
 支部長 津島 傳次郎 昭42専法 岡山商工会議所 理事長
 副支部長 井上 守三 大8専法 弁護士
広島支部 (広島市鞆町一三三) 今西貞夫方) 電広島 三七六一
 支部長 今西 貞夫 推 薦 弁護士
 副支部長 梅田 鶴吉 大12専法 弁護士
備後支部 (尾道市西御所町海岸通一糸崎海運商会河合衛一方) 電尾道 一六二〇
 支部長 河合 衛一 昭2専商 糸崎海運商会 取締役社長
関門支部 (下関市豊町) 岡本勲治方) 電下関 八〇九
 支部長 岡本 勲治 昭38専法 弁護士
徳島支部 (徳島市八百屋町一七一) 三宅二郎方) 大15大商 近畿広告KK徳島支店
 支部長 三宅 二郎 昭7大経 森永乳業KK徳島乳工場
 副支部長 小寺 善二 昭5専商
香川支部 (坂出市西通町二二六) 福岡良雄方) 昭2専法 衆議院議員
 支部長 福岡 良雄 昭2専法 衆議院議員
愛媛支部 (愛媛県伊予郡北山崎村三島町七六) 長埜友市方) 大14専法
 常務幹事 長埜 友市
高知支部 (高知市升形七の一) 岡内澗一方) 大10専法 高知相互銀行社長
 支部長 岡内 澗一 大14専商 高知地方裁判所判事
福岡支部 (福岡県筑紫郡二日市町武藏五〇八) 清原俊之助方) 電二日市 四〇五
 支部長 清原 俊之助 大14専法 清泉閣経営
大分支部 (別府市海岸北浜) 松島旅館方) 昭14大商 松島旅館経営
宮崎支部 (宮崎市吉村町今村甲四二二七) 西家宇平方) 大11専法 宮崎女子商業高校
 支部長 西家 宇平
 副支部長 稲垣 恒秀
鹿児島支部 (鹿児島市郡元町八四〇) 桑原義隆方) 電鹿児島 二五八〇
 支部長 桑原 義隆 昭6専商 公認会計士

職 域 會

名 称	連 絡 先	幹事その他 電話番号
大阪郵政支部	東区京橋三丁目 大阪郵政局人事課	井上 龍男 東 五〇四
法曹千里会	東区北浜二ノ八七	樫本 信雄 北浜三〇四
鐘 秀 会	都島区友淵町一三三 鐘紡淀川工場	榎木 好一 堀川三〇一
大阪機械同窓会	西淀川区佃町二ノ八 K K大阪機械製作所	東 正澄 淀川二三
朝日関大会	北区中之島三 朝日新聞社	弘末 正彦 北浜一三三
大阪府下教員		
秀麗 会	西成区長橋通九ノ七 鶴見橋中学校	戸川 一雄 新町三六八
大阪国税局		
秀麗 会	東区杉山町一 国税局徴収課企画係内	村上 健一 東 五三三
兵庫県庁		
秀麗 会	神戸市生田区下山手通五ノ一 兵庫県庁土木部庶務課	星野 正美 元町三〇四
西宮市役所		
関 大 会	西宮市六瀬寺町 西宮市役所	辰馬卯一郎 西宮五三〇
神戸市役所		
関 大 会	神戸市生田区橋通一神戸市役所貿易課	山本 鎮郎 湊川二三
大阪府庁		
関 大 会	東区大手前之町 大阪府防災課	吉田 一郎 東 三三
大阪地檢		
関 大 会	北区若松町 地檢庶務課 人事係	北田 利男 堀川三〇四
大阪高裁		
関 大 会	北区若松町 高裁人事課	長谷川秀雄 堀川三〇一
吹田市役所		
関 大 会	吹田市中泉町三三〇七市会事務局川喜田寛一郎吹田一六	
大阪地裁		
関 大 会	北区若松町 地裁判事	竹沢喜代治 堀川三〇一
農林省大阪食糧事務所		
関 大 会	南区安堂寺橋通三ノ一五 伊達 重雄 船場三三九	
関大近畿計理士会	北区鳴尾町一〇 長柄 金吾 堀川三六八	

校 友 会 役 員 の 栞 り 代 議 員

(五十音順)

荒賀勝平	赤松光雄	井口清光	池田哲郎	石川重吉	泉正雄	稲野兵衛	岩岸次郎	今井憲夫	今野貞徳	市川信藏	石川信藏	池田重吉	井上弘平	荒川虎一郎
阿部甚吉	井上精一	伊藤秀一	池田信之助	石原孫市	一井泰夫	今井憲夫	岩野郁太郎	植野太一	梅原貞次郎	江村至身	岡本重治	大石雄一郎	大島武夫	岡内春志
天井作次	井上龍平	伊東太郎	池谷龜太郎	石丸充賀	磯野兼	今井康夫	岩本公彦	浦本哲彦	江里口春志	岡本武夫	大島武夫	大久保茂平	大村孝	神崎伝次郎
阿部甚吉	井上精一	伊藤秀一	池田信之助	石原孫市	一井泰夫	今井憲夫	岩野郁太郎	植野太一	梅原貞次郎	江村至身	岡本重治	大石雄一郎	大島武夫	岡内春志
阿部甚吉	井上精一	伊藤秀一	池田信之助	石原孫市	一井泰夫	今井憲夫	岩野郁太郎	植野太一	梅原貞次郎	江村至身	岡本重治	大石雄一郎	大島武夫	岡内春志
阿部甚吉	井上精一	伊藤秀一	池田信之助	石原孫市	一井泰夫	今井憲夫	岩野郁太郎	植野太一	梅原貞次郎	江村至身	岡本重治	大石雄一郎	大島武夫	岡内春志
阿部甚吉	井上精一	伊藤秀一	池田信之助	石原孫市	一井泰夫	今井憲夫	岩野郁太郎	植野太一	梅原貞次郎	江村至身	岡本重治	大石雄一郎	大島武夫	岡内春志
阿部甚吉	井上精一	伊藤秀一	池田信之助	石原孫市	一井泰夫	今井憲夫	岩野郁太郎	植野太一	梅原貞次郎	江村至身	岡本重治	大石雄一郎	大島武夫	岡内春志
阿部甚吉	井上精一	伊藤秀一	池田信之助	石原孫市	一井泰夫	今井憲夫	岩野郁太郎	植野太一	梅原貞次郎	江村至身	岡本重治	大石雄一郎	大島武夫	岡内春志
阿部甚吉	井上精一	伊藤秀一	池田信之助	石原孫市	一井泰夫	今井憲夫	岩野郁太郎	植野太一	梅原貞次郎	江村至身	岡本重治	大石雄一郎	大島武夫	岡内春志
阿部甚吉	井上精一	伊藤秀一	池田信之助	石原孫市	一井泰夫	今井憲夫	岩野郁太郎	植野太一	梅原貞次郎	江村至身	岡本重治	大石雄一郎	大島武夫	岡内春志

友粹会(専二商)	昭一三	東区京橋三ノ五一・森田文一郎	東	三三
双龍会(専門部)	昭一四	枚方市落八四・坂本龍夫	枚方	五五
桃源会(学部)	昭一五	尼崎市神田中道六ノ三三・岩本公夫	尼崎	三〇七
喜楽会(専門部)	〃	北区中之島二ノ一八・帝國産業K K 黄麻課・山崎哲英	北浜	四五二 四五二 一五
十二会(専門部二部)	〃	北区梅ヶ枝町一八七・松下忠由	堀川	四六八 二〇〇
十	六	会	昭一六	堀川三三
十	八	会	昭一八	吹田三三

各地支職部 同職部 便り

【支部】 大阪支部

支部長 弁護士 中務 平吉
母校関西大学は年々興隆の一途を辿っておりますがこゝ数年來の発展は目覚ましいものがあります。これを施設の面から観れば校舎の改築、増築にその他設備の改善に教学の面から観れば教授陣の充実に博士課程修士課程の開講に外観内容共に著しい躍進を遂げております。このような隆昌の因をなしたことは経営面における理事者と教学面における学長以下教授諸氏の熱意と努力に負うものであること勿論であるが背後にある幾万の卒業生が蔭に陽に母校の発展に尽粹してあることも見のがしてはならない。殊に現在の学校運営の衝にあたつておられる理事

長、専務理事その他の理事、監事は校友によつて占められ更らに今度就任せられた岩崎学長が校友の大先輩であつて経営教学両面とも校友の手によつてなされておることは心強い限りである。

吾々校友にとつては母校は吾々の本家である。実家であるこの本家が、このよ

うな光輝ある発展を遂げたことはまことに慶びに堪えない、この機を外さず校友は一団となつて理事者を援護し益々母校の興隆に寄与したいと思う。

わが大坂支部は創立以来五十余年にな

るが、その間会員の親睦と母校隆興のため貢献してきたもので戦前年二回の總會には出席者多数で開催場所に悩むことが多かつた。戦争中一時中絶したが、昭和二十五年十一月に再建してから春秋二回

千里山二三会	昭二三	関西大学天六学舎校友課	堀川三三
一燈会(専二経)	昭二三	秋山剛	
一期会(短大一)	昭二七	東区北浜二 時事通信大阪支店	北浜三三
工專和鸞会		谷口吉信	
新制大学院修士会		関西大学天六学舎学生会	堀川三三
葺の葉会		横山茂昭	
		南区河原町一五〇一・荻田松博	戎 五五五
		尼崎市昭和南道八ノ〇六・宮田輝雄	尼崎三三〇
		東区平野町・平野町郵便局	
		天正春男	北浜三三

總會を開いておるが、これまた回を重ねる毎に隆興に向つている。たゞ念願するところは会員が先輩後輩古いもの新らしいもの互に手を取りあつて親睦を計り母校の隆興に寄与したい更らに、母校の将来校友会の将来は若い諸君で背負つてい

たゞかなければならない。この意味で新卒業生諸君挙つての御入会を祈念し双手を挙げてお待ちするものであります。

近く開校七十周年の記念を迎えようと

し五ヶ年計画中、最も重要なときに当り理事者の御健闘を祈り彌やが上にも母校の隆昌ならんことを祈る次第である。

福島区支部

福島区役所 竹内 勳
市民税係長

キリストも汝の隣人を愛せよと云つて

いる。先づ自己の身近な所から愛を及して行こうと云う事が凡て人間の社会生活である。少く共同窓、校友が互に愛し手

を繋ぎ榮えて行こうと云う事には多くの

矛盾を見出さない。

昨年頃から校友が母校の進展に深い関

心をもちその推進の母体ともなつて活動

し後進に益々途を拓き度い希望で各地の

校友活動はようやく活潑化している。

私学の育成発展は校友或は校友会の助

力なくしては偉大な業績を成し遂げ得ない

理事会教授会校友会が三位一体の形を整

える時学園の向上は活目すべきものがある。それこそ官学に見ない誇るべき自由と真理の殿堂が生れるであらう。

卒業生は今や如何なる職場にも活躍して

いない処がないと云つても好い程である。学生も巣立ち行く者も大なる誇りと自重をもち卒業生の各々がその職域或はその地区何れかの校友会に属し深い関心を母校に寄せざるればやがて近い将来私学の高峯たる事も決して夢でないと思

じる。

住吉区支部

支部長 眞鍋竹治郎
十五法會幹事

我関西大学は七十年の古い歴史を以て日本に於ける特異の私学の殿堂として発展を続けて来た事は洵に同慶にたえない次第で有ります。今や七十周年を迎えるに当り理事者諸兄は大学としての内容の充実と設備の完成に日頃御努力賜つて居る事は校友として感謝に堪ざる處で有ります。茲に深甚の敬意を表する次第で有ります。

省るに今日迄の校友会と母校との關係は単に校友で有ると云う丈の存在で有名無実の状態で有つた様に見受けるので有ります。之れには運営に一部欠陥も有つたものと思われませんが今後は今一步前進して接近の度を濃くして母校並に後進者の為の意を用い度いものと思うので有ります。新卒業生諸君を迎えるに當つて各々校友支部は企画と親睦を旨として発展を祈ります。

布施支部

支部長 小阪信
用金庫理事 塚本万次郎

布施市は人口十七万を有する大阪府簡易都市中有位をしむる商工都市である。本大学布施支部は会員四百以上を容し行政面に学会に実業会にその他あらゆる面に活躍している事はこの上もなく喜ばしい。

あたかも本大学は創立七十周年を迎えようとしている。この時に当り更に多数の校友諸君を迎える事の出来る事は誠に同慶の至りである。

何人にあれ家の古きを誇らぬ人はなからう、大学の誉れは校友の誇りである。今や本大学の知性は校友の燃る愛校心によつて全国に君臨するであらう。

全国の校友よ、手を繋ぎそして横の連絡を緊密に図らう。

最後に規模と学内の拡充は勿論智的、文化的、社会的、事業や催し物にもつと本学の介入や關係すなはち積極的であつていたゞきたい事を理事者側に特に要望して筆をとじた。

豊中支部

支部長・弁護士 安富敬作

豊中は大阪府下における文化都市、教育都市といわれているだけに、校友の數も群を抜いて多い。校友会と学生会とが共同主催で慶々會合することのできるのも特色の一つといえよう。この校友会は二十代の若い卒業生を会員に迎え、会に新鮮な息吹を吹込むことによつて、会の承継性と将来の飛躍が期待されるのである。それを思えば新しい時代の若い会員を胞擁できる組織と知性の高い運営をはからねばならぬと考えている。

池田支部

支部長・弁護士 弓庭元一

校友会池田支部は昭和二十八年二月現在会員百九十二名恐らく二十八年度卒業生を加えると二百名突破する実情です。

現在支部役員は支部長弓庭元一(大6専法卒) 副支部長津田彦信(大9専法卒) 同岡村永卓(昭7大英卒) 会計勝島亀代藏(大8専法卒) 同豊岡正芳(推薦) 外幹事十名で毎年一回春又は秋に總會を開いて会員の親睦と母校の発展に微力を尽して居ります。本年も三月上旬に岩崎学長を御迎えして盛大に總會を開く準備を進めて居ります。当地方の母校進学希望者は年々増加の傾向にあります。校友会支部の仲張発展は母校の隆盛の基盤をなすものと存じます。新規卒業生は必ず、各地区所属の支部に連絡入会される様を望みます。当支部も本年度より校友名簿を發行更に一層会員相互の親睦を計り母校の隆盛に一大飛躍を試み度いと存じて居ります。

神戸支部

支部長・公証人 山崎敬義

貿易の港、神戸市には、多数の校友が活躍しております。又、別に兵庫県庁にも関大秀麗会があり、神戸市役所にも同窓会があり誠に盛観を呈しています。神戸支部は、毎年例会を「北京樓」で開いておりますが、狭隘の為、本年は海岸通りの神戸商工会議所で開催、出席者も九十七名参集、母校から白川理事長、

久井専務理事を御招きして、母校の近況将来の抱負等を承り、教授森川博士に經濟に関する講演を御願した次第である。

過般、名称を「神戸関大クラブ」と致しましたが、実は校友会神戸支部であります。新卒業の皆様の内、神戸市在住の方は御遠慮なく、本クラブに御加入下さい。手を携えて、母校関西大学の隆昌の為に、大いに奮斗致しましょう。

尼崎支部

支部長 松尾高一
尼崎信用金庫理事

今般多数の新卒業生の方々を校友会に迎えるに当り、尼崎支部の近況を皆様にお知らせして御参考に供すると共に卒業生諸君の大学御加入と御活躍をお祈りする次第であります。

当支部に於きましては最近支部總會を開催する準備の爲め、一月二十五日尼崎市商工会議所に役員会を開催、支部長松尾高一(尼崎信用金庫理事) 副支部長須佐美八藏(須佐美牧場主) 同西村治三郎(大同通運専務) 幹事山野田重治(尼崎製鋸社長) 浜本正吉(KK浜本祖社長) 岩本公夫(共栄電機常務) 杉田兵作(杉田木材KK社長) 等相寄り相談の結果左の通り總會を開催することにしました。

一、日時 二月六日(土)午後六時
二、場所 尼崎商工会議所
三、議題
(一) 支部強化に関する件

(一) 母校七十周年記念事業協賛の件

(二) 支部役員改選の件

(四) 其他

尙特に母校より白川理事長、久井専務理事。矢野常任監事の御出席を願ひ母校の近況を拜聴すると共に、再び学長に就任せられた岩崎先生、近く欧米を學術研究に赴かれる本市出身森川先生、校友の神戸地檢安井檢事正、辰馬西宮市長、深川元伊丹市長の御先輩を御迎え申上げ種々御高見を拜聴し、校友互に旧交を温め

先後輩の連絡も密にし母校の發展を期すると共に相互扶助の一助とも致し度き考えてあります。市支部拡充の爲め市在任又は当地區勤務の方七百余名に案内してゐる次第であります。

皆様も御卒業後は校友会が唯一の連絡提携の機関でありますから何卒全員校友会に御加入の上各支部の活動に参画せられます様祈つて止みません。

川辺支部

支部長・弁護士 深川 實

川辺支部は、兵庫県川辺郡(伊丹市を含む)に在住の校友四百五十名で組織してゐる会である。

創立は昭和十一年であつて、十八年間継続して、支部運動をなし、川辺地方に大きな基礎を持つてゐる。北は宝塚から阪急沿線、中山寺、花屋敷、川西町、南は伊丹市迄、住宅地を控えて、有力な校

友が多数活躍してゐる。

本年、新らしく卒業なさる人々は、是非校友会に入会して頂きたい。そして同窓と云ふ名のもとに提携して、母校関西大学の名声を發揮しようではありませぬか。

古い先輩に指導して頂くと云うことは社会に出てから必ずや人生修業にプラスとなつて役立つであらう。

芦屋支部

支部長・計理士 田邊 由治郎

我等は茲に新しい多くの校友を迎へたる事は真に喜びとする所なり、諸君は輝しき七十年の歴史を持つ関西大学の新卒業生として且つ名実共に最高学府の權威ある教養を身につけた文化人として活躍せられる事となりたるは誠に洋々たるき極みである。諸君の前途は実に洋々たるものである。諸君は我が関西大学を今日迄に建設せし多くの先輩の功績に対し諸君の修学せし學術を今後充分に貢獻發揮し限り無き恩師の御指導に対する感謝の念に報せられん事を切望するものなり

諸君こそ幸福者である。長き歴史と高き權威を有する母校校友として且多くの先輩校友があらゆる方面に活躍せられる実社会に於て思う存分に最高の努力を進展出来るを見る時に私は校友の一人として衷心より有難く感謝し感激するものなり、私は昭和十三年学部商科卒業なるも

永年の軍隊生活にて南方ニコバル諸島カモルタ島より終戦後帰還せしも此の間実に困難に会い再々死線を越えて参りましたが母校在学中諸先生の御厚情と馬術部に於て鍛えられ闊大精神を以てあらゆる難関を突破出来たる事を真に喜びとするものなり、現在芦屋駅前通に於て会計稅務事務所を開業致して居りますが、私は常に所員に「笑顔で迎えて感謝で送れ、研究なくして向上なし、幸福は朗かな活動より」の標語を私の精神として徹々させて居ります。諸君は益々智、徳、体の改善進歩を謀り人格の向上に努力し將來の輝しき目的に向つて邁進せられん事を祈つて止まない。尚芦屋市居住及勤務の新校友の入会を切望す。連絡來所を乞う

東京支部

支部長 福田 繁芳
衆議院議員

母校関西大学を卒業して、既に三十年に達せんとしている。

入学した當時は、現在の在学生諸君の想像も出来ない所謂「福島学舎」のみに狭小なるものであつた。「天六学舎」が出来、亦一面當時の学生としての吾等の空想にも描けなかつた実に広大なる千里山学園を持つ現在の母校を想ふ時、歴代の大学当局理事者諸君に心からなる敬意を表すると共に始めて卒業生としてのほこりを之、心から感じること、特に吾等と同じき明治時代、大正時代の学

生でありし者は一にした尊い事実であると思ふ。

一、校友会東京支部は戦前迄は、全国的に有名なる校友故後藤武夫、故作間孝逸武田宣英等諸先輩の母校愛の力で実に一大偉容を呈していた。

二、戦争熾烈になるに供なひ一際の場合と機能が御多聞にもれず不幸にして停止されてしまつた。

三、終戦後、香西政一、安田日出男、中山幸一君等相寄るに供なひ支部再建が話題になり、八方校友住所を調査すれど疎開戦災等の爲ようとして判らず、第一回会合に住所判明した者、元老、平岡啓道氏を始め十数名に過ぎず。

四、然共人間の熱意と云ふか、或は一生の思出深き母校愛と云ふものは恐しいものである。特に母校を遠く離れてこそ始めて其感を深くするものとみへて其偉力が發揮されるものである。

爾來会合すること十數回、現支部員名簿には、三百数十名、会合する都度七八十名は顔を揃へて合せる程盛會になつた。母校の存在地と遠距離なれど完全に首都に存する支部として恥かしからん体制を整ふに至つた。

母校当局に希望することは、我国文教政策として今後私立大学の責任が如何に重いか。尚母校関西大学は、老衰期に非ずして青壯年期なることを深く認識され

て新しい時代の感覚を念頭に置かれ、名
実共に全国私立大学中Aクラス級の筆頭
の条件を具備されんことを全校友の声と
して訴へること切なるものがあります。

関西大学校友会東京支部事務所

東京都中央区銀座八丁目出雲ビル

三六号室 電話(57)九〇八四

岡山支部

支 部 長 神崎 傳次郎
岡山商工会 議所理事長

師の御恩を、母校の恩を忘れませぬ、
との言葉をよく聴きますが、如何に之を
実行するか、言行は容易なものでありま
せぬ、私は関西大学を卒業し、茲に四十
有年を閲しました、此間職の如何にかゝ
わらず、学んだ専門の法律を忘れまいと
生徒の気持ちにて法律の研修もつゞけて
いる。そして刑法をやれば、当時の先生
の姿が、民法を見れば又その先生が、ほ
うふつとして眼前に現われる、私は恩師
の姿を思いながら勉強をつゞけて来た私
はこうして、生涯、学徒として研究をつ
ゞけて行くつもりである。また母校発展
校友会向上の為め数十年間関大校友会岡
山支部長として、微力ながら協力さして
頂いています。

新卒業生諸君に於かれて私の心境多少
にも御参考になりますれば私の幸ひ之れ
に過ぐるものわありません。

鳥取支部

支 部 長 奥 澤 澄
計理士・税務士

当支部は、昭和二十六年春本県出身で
先輩の理事村尾静明、関馬馬両先生の御
臨席を仰いで賑々しく創立したが、一昨
年の鳥取大火災の為しばし無活動状態と
なつた。然し昨年六月、久振りに開かれ
た校友会総会に出席し、千里山学舎の堂
々たる威容、又学園内の充実等、至れり
尽せりの施設に感銘一入。今後益々発展
する母校の為、支部を堅実にする覚悟を
決ると共に、他方学園に在学の学生県人
会結成を、及ばずながら助成した。その
結果は、予期通り実を結び、去る一月五
日、婦省学生開催の創立総会に、倉吉、
米子の校友代表と共に出席し、関大に学
ぶ喜びと誇りを再認識せしめると共に、尙
今後は大学の休暇帰省の節、支部総会を
開催し、併せて学生と県人学生会も一緒に行
う様、而して校友と県人学生会タイアップ
することにより、より以上母校の進展を
期することを約した。

香川支部

坂出市役所 福 岡 良 雄

前途の希望に輝き無限の歓喜に胸の高
鳴りさえ覚ゆる新進気鋭、前途有望なる
関大生諸君の門出を衷心からお慶びを申
述べる。

近時母校の教育施設の充実教授陣の強

化、学生々徒の質的向上、加うるに長い
歴史等相俟つて名声を高めつゝあること
は校友の一人として誠に限らない喜びを
感ずる。

「人生は試験の連山である」小学校か
ら中学、専門、大学へと上に進むにつれ
何れも皆この試験の関門があり、学校を
出て官庁、会社等の採用試験、更に就職
すれば日々これ、人物、力量、才幹等の
試験ならざるはなく、いよいよ競争の激
甚に伴つてこの人生試験の山は益々高く
峻しく起伏重畳である。私の短い経験
を通して「処世の道」を語るなれば誠実勤
勉の一語に尽きる。諸君達が就職しても
当分は誰しも緊張するが漸く半年、一年
過ぎると喉元過ぐれば熱さを忘れ、緊張
の度が弛み駿馬の落伍した例が多い。次
に大切なことは人の和である些細なこと
に腹を立てたり、他人と調和が出来ず敬
遠されたりして登龍の機会を失する。母
校の興隆発展も諸君の努力にかゝつてい
る。

備後支部

支 部 長 河 合 衛 一
糸崎海運社長

備後支部は昭和十五年故中場彌太郎氏
(前支部長明治卅二年法)等により結成
翌年第二回総会を開催、会員の親睦を計
ると共に元学長神戸博士、現学長岩崎博
士、森川教授等を招き母校の対外宣伝の
トップを切つて大講演会を催し大好評を

博したが、昭和廿六年十一月中場支部長
死去せられ其の後、河合支部長就任する
や支部の再興発展を期し昭和廿八年六月
四日第一回支部春季総会を母校側より久
井専務理事、安井校友課長の来臨を得て
盛大に開催する事を得た。母校発展の為
の一プロックとしての有力なる外郭団体
として将来その威力を発揮し得る様計画
立案中。

尙当支部の区域は広島県東部の備後の
国一円を含むものにて即ち三市九郡(尾
道市、福山市、三原市、御調郡、甲奴郡
神石郡、世羅郡、双三郡、比婆郡、深安
郡、芦品郡、沼隈郡)にわたり範囲相当
広く会員の住居が距離的に距り居る為運
絡に不便と会の基礎未だ固まらずと雖か
ならずや将来その発展の刮目するものあ
るを期する事が出来る。

【職 域 会】

大阪国税局秀麗会

大阪国税局徴
収課企画係長 村 上 健 一

昨年本学を卒業して保険会社に就職し
実習生として勧誘に歩いている人に会つ
た。対人的交渉のうち保険の勧誘は最も
むつかしいものゝ一つに挙げられよう。
私も事情は異なるが税務官吏として若い時
代に税金の徴収に寧日のなかつた頃を思
い出しつゝ、その人のまじめに「人の世」
に取り組み、真剣にものを考えておられ

る態度に大へん愉快に感じて、思わず一時間余りも話し込んだことであつた。

同じ学窓に育つたということはそれだけで理窟抜きの親近感が湧くものであるが、未知の若い人の態度が真剣であればあるほど、一層親しみとうれしさがこみ上げてくる。

学生という袂を脱いで、一般社会に飛び込んでみると、学生時代に考へてゐるほど世間は甘くはない。しかも始末の悪いことはそのことが判るのに可成りの年月がかゝるといふことである。要は与えられた仕事に真剣に取り組む、一面謙虚に反省する態度が望ましい。

このことは新校友の諸君に期待すると同時に私自身のこれからの処世訓ともしたい。

大阪府廳關大会

大阪府秘書課長 井上敏雄

近く我が母校関西大学を學立つ前途有為の学生諸君を實社会に迎へるに當り、卒業生として心からの祝福と、歓迎の言葉を呈したい。

関西大学が関西私学の重鎮として光輝ある歴史のもとに特色ある私学の伝統を發揮し、多くの先輩名士を輩出していることは今更いうまでもない。私は今に及んで、つくづく関西大学卒業生の有難さを感じるので、諸君が此の伝統と校風

のもとに、関大魂を身につけて、社会に

出られ本会に新入会せられることを此上ない底力だと感ずる。現下の世相は誠にせち辛く、就職の門も狭いようであるが斯ういう際に母校を一つにする校友の指導や援助激励ほど力強さを感じるものはない。学校は、卒業してしまえば無関係だといふような考え方は納得できない。

私は関西大学は、我々卒業生の母でありいわば、我々はそこから生れてた兄弟として血縁的なきずなは結ばれていることを、實社会に出て切實に感じている。どんな学校でも、卒業生はその殆んど凡てが、夫々の職域に於て、或いは地域毎に支部を設けているのであつて、我々の職場である大阪府庁においても、約四百名の卒業生が、校友会支部を組織して信愛と友誼に満ちた交友を續けて母校の聲価を發揮することに努めておる。

諸君の志される前途はもとより多面であるが、どうか、関大卒業生の矜持と自覚のもとに、今後社会人としての男らしい道を進んでもらいたいものである。

大阪市役所支部

大阪市公聴課長 村上精三

わが母校は大阪における私学でも、古い歴史をもつている大学で、従つて市役所に奉職している吏員も相当数に上つて

いる。市役所支部は第一回の總會を森下政一

氏が財務部長当時交通局で開かれた経歴を持つていふように思つてゐる。ところがその後、庁内において常に市役所支部を結成して今日の声が高まりつゝも、その機を逸し今日に至つたものである。

たまたま昨年末岩崎新学長が就任されたことを機会に有志間で話題となり十一月二十八日午後二時より警視庁会館において戦後初の準備委員會を開催し、支部会則、次回總會等の事項について協議した。

なお当日の出席者は、学校当局から白川理事長、久井専務理事、市側及神宅公安委員長、中石、寺西両市議、警視庁、市役所係長以上、区役所課長以上、合計五十名。

西宮市役所關大会

西宮市稅務部 喜多敏夫
主稅課

西宮市役所では昭和二十六年四月より吏員の中より学部、専門部、短期大学の卒業生を以て、関大会を組織してをります。

名誉会長として市長辰馬卯一郎氏、副会長として助役松田唯一氏をはじめ部課長以下現在十九名の多きに達し、ますます充実の一路を辿りつゝあります。年に一回の定期總會を持ち、年末年始はもとより、春秋にはお役所式な気分を全然離れて、過ぎし学生時代に想ひを馳

せ、先輩後輩として親睦を計り、明朗な歩みが続けてをります。

先輩後輩の諸君に於ても今後此の様な関大会をどしどし作られ、お互に職場での関大同窓としてその交友を深め、引いては他の関大会との交流を深め、充実した社会的な関大クラブを生み出さうではありませぬか。

こゝに各位の御健康と御幸福を御祈りして西宮市役所関大会の紹介と致します

吹田市役所關大会

吹田市議會 川喜田 寛一郎
事務局長

大学の所在地である吹田市に、住んでいる私をよるこぼしてくる一つは、母校関大が、年ごとに綜合学園として、拡大發展していく姿である。

大きくなることは、それだけ我々の兄弟が殖えることだと考へている。私らは職場にも多くの兄弟をもつており、クラスメートの昭四会をもつていて幹事が大変な世話をやいてくれる。関大色とも言うか、寄ると話題は学園のなつかしい話でつくるところがない。寄り合い、語り合う機会が、母校の校友会に大きな收穫をもたらす端緒になることだと思つてゐる。吹田市役所関大会の發展向上と言う大きな役割を、背追つた私の責任はまことに重大である。

朝日新聞社關大会

朝日新聞社 弘末正彦
経理局會計課

朝日新聞社内にも関大出身者は案外多い。今、大阪在勤者をざつと数えても五〇名はいるから、各地勤務者を通算すると尤に百名に近いのでないかと思つてゐる。これという会則も作らずに、何となく関大会というものを作つて五、六年になる。とは言つても、一堂に会するといふやうな事はとても放れ業にひとしい。夙と宵と夜中といつた工合に。社内に入る時間も区々なら、のこのことに顔を出してゐて、他社に記事を抜かれては記者の生命がないんだから、他所様のやうにはいれない。お偉ら方になるよりも外圍に飛んでニュース面に奔走するのを本望とする連中だから、在社何十年のベテランでも所謂平社員で、氣位だけは相当なものだ。こんな社会だから何時までたつてもピー助のブン助と相場はきまつて嫁のやり手も大分思案するらしい。

關大近畿計理士会

會長 鶴飼金次郎

本会は関大卒業の大阪市を中心とする計理士を以つて組織するもので昭和二十二年十二月十三日に発会結成し、次で同月二十五日に役員を決定し會長に鶴飼金次郎副會長に広実都雄、長柄金吾の三氏が決定した。現在大阪府下一円の関大計理士は百三十名にして大阪計理士会の三割以上を占めて居り互に意氣相通じ業界活動に極めて優位有利な存在となつてゐる。

事務所 大阪市北区鳴尾町一〇番地

長柄金吾方(電話堀川一三九八)

【同期会】

大三会

松重電機株 松本芳太郎
式会社社長

大正三年七月当時の法律、高等商業、経済学科、併せて百十一人が福島の旧学舎を卒業して実社会に送り出されて今年で正に四十年になる。吾々の同窓会を大三会と称して今日に及んでいる。消息を得たり又は健在を伝えられる諸君を数えんと今日尚ほ七十余名が何処かで母校の四十年の昔を偲んだり懐しがつて居る事であろう。

大正三年は母校創立の年から数えると十六年目に当るのでそれを考えこれを思ふと吾が「大三会」同人も白髪を交えて

追々老境に入つて来たものの、其後陸続と社会に送り出され来る新進の諸君の事を思ふと関西の学界に長き歴史と伝統とに輝く母校の毎日の発展進歩を心から喜ばれずに居れぬ。大三会には格別特色に富んだ異彩を放つた人は居ないが、在阪の會員二十余名、年一回は必ず会同して懐旧談や在校時代の偲び又事業上の扶けられたり扶けたりの話など氣持のよい半日の清談を送ることになつて居る。

因に此大三会は大正十二年末關東大震災の年戸波次郎君が東京より引揚げ異常な努力を以て在阪諸子の消息を集めて創立したものであるが同君は不幸昭和十二年五月大阪市電気局病院事務長在職中逝去せられたもので其後引続き今日に及んで居る。

十四会

計理士 岸田駒太郎
稅務代理士

大正十四年専門部各科卒業生が在学当時の昔を偲び母校と共に大いに伸びようとの申合せで組織せられた同窓会である。流石卒業後三十年経つていたので會員の総ては官界人、実業人、自由職業人としての中堅の地位を占めて居るのが喜ばしい。生硬な会の規則は融通がきかないから温愛に満ちた不文律と慣習で力強い精神的の結合であるところに特異性を有

つてゐる。總會毎に時には九州はじめ遠方の地から参加するものあつて中々盛會であるのも會員中に母校監事西村治三郎君、教授佐伯三郎君が居る母校の現況を直接聞きつゝ旧情を温めることが出来得るので元の紅顔の青年にかえつて肩のこらない總會を繰返している。本会の将来の希望は只全關係者漏れない住所を知つて会ある毎に一人でも多く参加してほしいから遠近を問はないで全關係者一心左記を連絡を乞う。

大阪市北区絹笠町大江ビル内

岸田計理士事務所内

關西大学十四会宛

一五会(大正十五年卒)

都島工業高 神保敏男
等学校 教諭

母校關西大学が、今又多くの卒業生を社会に送り出すに当り、「關西大学々報校友特集号」に愚見を述べる機会を与えられたことを、誠に光榮に存する次第であります。私達は卒業してから、ここに三十年目の年を迎えました。あんなつかしの千里山時代が次ぎ次ぎと思ひだされて来ます。私達の命をかけての、昇格運動や、学生定期値下げ不乘同盟等々悲喜こもごも胸に迫るものがあります。會員八十五名中、麥り種を、各分野から二、三紹介してみると、先づ独立美術

協会会員の、島海青児君をあげることが出来る。同君は商科を卒業後、フランスに学ぶこと四年、春陽会会員となり、後独立に転ず。在学中から特異な画風は定評があつた。現布施市議で弁理士の森喬君もなかなか絵の方で角におけなかつた。卒業試験の休憩時間に、後に神戸裁判所で判事をやつた野村君がボールドに特意の馬をえがくと、森君この馬死んでいと、目をかきかえる。野村君同様に学中に高文司法科に合格した。戸田省三君もなかなかの変わり種、卒業後行政科及び外交科の筆記試験をスルスルとパスしてから、本学留學生として、ロンドンに遊学中客死したのは、かえすがえすも惜しい、銀行には、住友銀行船場支店長の丹羽君と、神戸銀行京都支店長の林君がどんと座つて動かない。法そう界では土井・福西・井上の三君がそれぞれ、東京・大阪・神戸でがんばつている。会社の重役には岩岸・久保田・大泉等多士才々、あぐれば限らない程である。

私はこれらの学友から、三十年間に次のようなことを学び得た。即ちそれは、石の上にも三年ではなくて、石の上にも三十年辛棒することが、成功の秘訣であることを。

新卒業生諸君よ、いよいよこれから、あいより、あい助けて、大いに活躍しようではないか。

昭三 会

法曹千里会

弁護士 樫本 信雄

昭三会は昭和三年度の学部卒業生の集りであるが、関大昇格後に初めて入学した連中なので法経商を合せて六十名足らずという小人数で商科の如きは僅かに三名であつた。既に故人となつたものもあり、現在大阪に在住している者は二十数名位である。然し所謂変わりものも相当あり人数が少ないだけに親しみも深かつた和田、森川両教授も其の間である。

法曹千里会は学部出身の法曹、主として弁護士の集まりであるが、殆どが大阪弁護士会の所屬であり平素顔を合せる機会も多いが時には訴訟の相手方となつて争う事もある。又判検事ともあれば職責上特異の立場に於かれることもあり、他の会合には見られない会員相互の姿である。

従来母校の為又後進の為という働きもしていないが、今後出来得る限り努力したいことは会員全部の気持である。

近年母校の發展は実に著しいものがあるが、真に私学の雄として誇り得る学園となす為には各卒業年度或は職域の会員が一九となつて母校のため尽くすことが肝要である。新卒業生諸君も我々と相携へて此の理想達成に協力して欲しいものである。

昭三 会 (専門部)

丸丹商事株式会社
社 常務取締役 尾崎 信夫

世評に兎角関大出身者は玉石混淆であるとか、此の言は吾々には誠に耳痛いと同時に又心外に堪えぬ言ではある。然し此の痛烈な世評を裏付けるものとしては吾々の至らぬ点も多々あるけれど反面七十有余年の歴史を保持する母校の方針にも大いに欠けるある物が、あつたと云う事は否めないと思う。昭和三年卒業以来、社会人としての年歴廿数年にして深く

感得するものは、先づ母校が万難を排してこの欠点を自覚是正、校友の為にあくまで積極的に温情ある補導の実を挙げなければならぬと云う事と同時に、吾々も深く母校を中心にして常に反省修養に心がけねばならぬと云う事である。今日の母校が数年前とは雲泥の相違ある観念に立つて、此の点に頗る留意されて漸次ながらも、積極的な動きを見せて下つて

いる事は誠に御同慶に堪えない次第である。事は一願にして成らずと雖もこの事は今後の母校發展の上に必須の事柄であると確信する。要するに母校發展の基本は車の両輪の例えの如く、内的に育成しつゝある在學生のみならず、外的に在學生即ち校友をも包含して補導垂情するにあると信ずるものである。「俺は関大の校友である」と天上天下に高言し且自負

して止まぬ自尊心を培うと共に、この言を觀賞して言はしむる様学校当局の一層の愛情を切に希うものである。

吾々の先輩も又吾々も更に後輩の諸君も、共に学歌にある親和の一点に相寄つて母校関大の隆興を熱願しよう。兎もあれ今後にも果立つ諸君の栄光と幸福を望んで止まぬ。

斯文 会 (昭和四年)

関西大学
校友課長 安井 章 吾

斯文会は、昭和四年専門部文学科卒業生の集りである。卒業以来廿五年、各々進む道は違つたが、関西大学斯文会の旗印のもとに、母校の名声を挙げることに ついては凝集結束している。

昨年大学祭の際には、母校学園の観祭を兼ねて、千里山の大学ホールで例会を開いた。

遠く広島から走せ参じた会員もあり、その熱意には頭の下がる想いがする。在學生諸君も、やがて卒業の暁は、必ず校友となられるのであるから、吾々と同様の中の地方支部であろうと、職域会、同期生会の名を問はず加入して、関西大学校友会を盛り建てようではありませんかそれは結構、母校の隆盛に大いなる寄与となるのですから。

昭六会

大阪市警視庁
保安部長 三谷久男

す、「袖すり合うも多少の縁」と言つた俗語がありますが、人間はそう言つたわずかな縁の中にも大きな力を感じるものです。

この度蟹雪の功なり、御卒業の榮幸になられたことを校友の一人として心からお喜び申し上げます。大半の諸君は卒業を離れて、新らしく社会人として巣立られることと思いますが、諸君の生涯の基礎は卒業後の五、六年の間に形造られるものです。今までの観念的な生活から深刻な現実の社会にはじめて独力で船出されるわけですが、社会人としての私達の人生航路は必ずしも坦々としたものではありません。ある時は冷たい社会の壁が、ある時は目に見えない圧力が待ち受けています。勿論その圧力が私たちの推進力ともなり又は前進をはむものではありますが、このような社会の障壁にぶつかつた時、常に心の支えとなるものは母校であり、校友との近親的なつながりであることを意識される場合が必ずあると思います。私もそうだったので、過去を尊重しようとする人間の本能でも云うか、在学中、又は卒業直後は、それほど意識しない母校が年と共に懐しくなり、思い出深いものとなつてきます。同時に職場で校友を知つた時、又は行きずりに学校名を聞く時、意識、無意識のうちに校友から保護されているような親しみを感じ、力強く思う時があります。

千里山昭八会

関西大学
就職課長 平井三朗
厚生課長

今年も亦二千数百名の新卒業生が学窓を榮立つことになつた。校友会としても無限の威力を加えるものである。関大の前途が一步々明るくなつて行く感だ。新卒の諸君は大学に於て養つた実力を、その真価を十分に社会に問うて欲しいものだ。卒業生の実力と信用とが現在より明日えの大学の声誉を決定する。税金で支えられて居る国立大学とは凡そその

十期会 (昭和九年)

弁護士 河内兼三

吾々が母校を卒業した昭和九年頃は校友会に対する一般の関心が低く、校友活動も余り活潑でなかつた。そこで同期生の連絡をとり親睦を計る為め卒業間もない頃十期会を作つたのである。戦時中一時会の活動は中絶したが、昭和二十二年春頃から再出発し今日に至つて居る。此の会の御蔭で学校の事柄に関する限り十期生は纏りがとても早い。矢野常務監事を送つて統制宜しくやつて行つて居る。

関大も七十年の歴史を持ち今日外観内容共に調期的充実発展を為しているのであるが、此の大事業を完成さす為めには強力な校友活動がなければ駄目と思う。それには先ず校友会館の早急なる設置を希望するのであるが新卒業生諸君は即時全員入会され生新しい学生時代の体験に基づく意見なり希望なりを校友会に反映さすことである。此の手段として私は十期会の如き会も作る必要があると思う。

千里山十二会

幹事長・計理士 長柄金吾

本会は昭和十二年大学々部を卒業した同期会で昨年十月九日結成し会則の承認役員及び事務所を決定し春秋二回定例会を開くことになつて居る。会員は約二三百名であるが、連絡可能なものは一五〇名である。近々中谷教授の博士号授与の

祝賀を兼ねて中谷、森川両博士の渡欧歓迎会を催すことの準備中である。各方面の中堅的活動をしているので新卒業生諸君とも今後実社会に於いて緊密なる連繫の下に相発展を期待している。

幹事 岡本顕調、永田旭、細井三郎、河井中、桑本重吉、小西秀夫、村上秀吉、多田米蔵

友 粹 会

浪速塩業株式
会社 取締役 森田文一郎

昭和十三年専門部商業学科(二部)の卒業生で組織している本会は、在学当時より特に同級生間の交友関係緊密であり

毎週一回クラス会を開き教授の先生方をお招きして親睦を図つたものであつたが卒業してからも熱心な世話係の努力により卒業後十五年を経過した現在、常時連絡可能な者五十名、春秋二回の総会及び

世話人会、有志会を三ヶ月に一回開催し親睦を加えると共に同窓生お互に事業其他に広く協力し合つてゐる。丁度年輩も

各界第一線の働き盛り、官公庁、会社では課長クラス、自営成功者数名で頼もしい限りであり、殊に暇な者の発起で今年

は月に一回の定例晩餐会を是非設けたいものと画策中である。酒一つ汲み交すにも招待の、如何のとの気苦労がなく、心配なく悪口の云い合えるのも同窓ならではの楽しみで、新卒業生諸君も是非一つ

強力な同期生会をつくられる事をお勧め

したい。唯、我々の経験からすればこんな楽しい会合も、お互の協力は勿論、誰か本当に世話役の労を惜まない者が居なければ絶対に出来つこない。しかもその

る暇が出来たり、懷中に余裕が出来たりしてから集まらうと思つてもダメで卒業と同時に強力に(或いは在学中より)

同期生会を結成して長年月に亘つて皆が努力し合はねば到底出来るものでない事を特に強調したい。と共に大学側に於ても之等個々の同期生会に対し一層側面的な協力、便宜を与えられたいものである。猶本会事務所は左の通りであるから未連絡者は御通知を頂きたい。

大阪市東区京橋三丁目五三
森田文一郎方

友 粹 会 事 務 所
電東〇七三二番

双 龍 会 (昭和十四年)

計理士 坂本龍夫

学校を出て十年余も経つと嘗ての同窓生もなかなか会う機会がない。在学中どんなにか親しんだ母校とも全く離れて了つたようになり誠に淋しい事である。然し乍らそこには私共に最も親しむべき校友会がある。私共は関西大学の卒業生としてこの校友会に重大関心を持たなければならぬ。校友会が老先輩のみが集る会であつてはならないのでこの点最近の卒業生は大いに参加して賑々しくせねばな

らぬ。そこに母校の発展する要素があるのだ。我が母校の先輩は温い心でそれを望んで居るので私共はいつも感謝に堪えない。亦学校と校友会が緊密一体となつてこそ益々母校が発展して行くので最近の有様は誠にうれしく校友会関係諸氏の御努力を期待して居る次第である。勿論私も新しい校友の人々と共に母校発展のためなら如何なる事にも寄与したいと念願している。

桃李源会 (昭和十五年)
共栄電器工業株式会社総務部長 岩本公夫

卒業の喜びと同時に母校関西大学の校友となられる皆様一言お祝を申し上げます。私達校友も千里山に亦天六にて、勉学に、スポーツに、交友に、多感な青年末期の「我が青春に悔なし」時代を送つた者共の集ひであり、そうして関西大学に学んだことを誇りとする者であります。新に卒業された皆様は、関大OBとして、実社会の新入生となられるわけですが、卒業して先ず想うのは校友です。大

学を出て大学を出ない者に誇りうるのは、唯一つそれは校友あるのみです。学問は大学を出なくても出来ませんが、校友だけは学窓に学んだ者が持つ特権なのです。この事をよく覚えてをいて下さい。卒業してから同期生会なり、クラス会なり

同志の集ひなりを年数回は催して旧交を温めて下さい。私達昭和十五年の学部出身者も同志のみ卒業以来十年間は毎月一回集会をしました。(但し終戦前後一ヶ年は止むを得ず休会しました)最近は随時集会をして居ます。社会人として年をとればとる程旧交を温めるのはとても言葉や紙上にあらわすことの出来ない嬉しさと喜びを感じるものであり、その友情は学生時代と異なることなく、更に増加するものです。

桃 源 会 (昭和十五年)

共栄電器工業株式会社総務部長 岩本公夫

卒業の喜びと同時に母校関西大学の校友となられる皆様一言お祝を申し上げます。私達校友も千里山に亦天六にて、勉学に、スポーツに、交友に、多感な青年末期の「我が青春に悔なし」時代を送つた者共の集ひであり、そうして関西大学に学んだことを誇りとする者であります。新に卒業された皆様は、関大OBとして、実社会の新入生となられるわけですが、卒業して先ず想うのは校友です。大

学を出て大学を出ない者に誇りうるのは、唯一つそれは校友あるのみです。学問は大学を出なくても出来ませんが、校友だけは学窓に学んだ者が持つ特権なのです。この事をよく覚えてをいて下さい。卒業してから同期生会なり、クラス会なり

千 里 山 一 八 会

関西大学教授 櫻田 馨

今日は校友という立場から、新しい卒業生や在学生の諸君に短信を送る。そして私たち校友が母校というものに如何なる気持で臨んでいられるかをお知らせしたい。昭和十八年に卒業した私たちは単的に千里山一八会と名づけ春秋二回の会合を心から楽しんでゐる。その会則第一条の目的に曰く「本会は関大精神に発源する崇高なる正義感と清純なる友情を結帯として結ばれたものであつて、会員相互

同志の集ひなりを年数回は催して旧交を温めて下さい。私達昭和十五年の学部出身者も同志のみ卒業以来十年間は毎月一回集会をしました。(但し終戦前後一ヶ年は止むを得ず休会しました)最近は随時集会をして居ます。社会人として年をとればとる程旧交を温めるのはとても言葉や紙上にあらわすことの出来ない嬉しさと喜びを感じるものであり、その友情は学生時代と異なることなく、更に増加するものです。

亦卒業しても居住地の校友支部の總會等の集会には出来るだけ出席して下さい。OBはOBなりにすぐに心安くなるものです。そして社交性も豊にして下さい。

最後に母校関西大学の発展と諸君の前途を祝福する次第です。

今日は校友という立場から、新しい卒業生や在学生の諸君に短信を送る。そして私たち校友が母校というものに如何なる気持で臨んでいられるかをお知らせしたい。昭和十八年に卒業した私たちは単的に千里山一八会と名づけ春秋二回の会合を心から楽しんでゐる。その会則第一条の目的に曰く「本会は関大精神に発源する崇高なる正義感と清純なる友情を結帯として結ばれたものであつて、会員相互

の親和と共生を理念とし、以て各人の発展と母校への貢献を為すことを目的とする」と。この気持は、二三人集つて酒を飲んで、百人集つてお茶を飲んでも羨りなく必ず数回は繰返される。自然の秀麗や逍遙歌の合唱にも現われている。これらのグループの綜合体が校友会である。ここではおびたゞしい数の兄弟肉親の集ひという感が深い。そこで又会いましょう。

修士会

会長 尼崎市 宮田 輝 穂
監査委員 宮田 輝 穂

今度御卒業される皆様、おめでとう御座います。今回大学院修士課程を出られる方は出来るだけ博士課程に進まれる様におすゝめします。又学部其他を卒業される方は出来るだけ大学院へ進まれる様におすゝめします。何十年か後には大学出は大学院ということになると思いますが。さて御卒業される皆様は自動的に校友会会員になられますが関西大学修士会はこの校友会内のグループで大学院を卒て修士の学位を持つた者の会です。只今九十四名ですが半年毎に増加しています。名簿二回、会報二回発行、總會を三

回開催、總會毎に學術研究発表をします。会の機構は大学院の様に専攻専門科目毎にグループを作つて居り、各グループ内の各卒業期より幹事が出てこのグループを世話し、このグループの代表が修士会の理事となつて居ります。それで只今十五名の理事が居り、各法文経研究科の代表が会長か副会長を務めることになつて居ります。さて此の会の会員がどの様に活躍しているか、名簿の職業欄から伺つてお知らせしましょう。まだ学生の様に勉学継続組六名、博士課程の森、田中沢田の三君を始め関学大学院、慶応

大聴講、本学学部等の学生各一名、本格的の研究の原助手、津川副手、尙教育関係者は一番多く二十六名、高中小校長及先生方を指導している大阪市教育委員会指導主事の安橋先生(本会副会長)を筆頭として、本学大学講師兼一高教諭の栗駒講師をベテランとして、高校教諭十三名、中学教諭八名、小学先生三名、尙会社々長重田君を始め会社常務藤井君(本会副会長)他八名、交通関係七名、家業六名無職と称する裕富者三名、尙名譽職として吹田市会議員の佐々木君と三十五万市民の目付役尼崎市監査委員の宮田(本会々長)が居ります。

最近十五年の校友会を顧みて

校友会副会長 長柄 金吾

学生諸君が校友会復興と云う名辞を以つて最近吾々に迫つて来ている。それは洵に有難い事でありそのセンスを尊び若い卒業生と近く卒業せんとする学生が先輩校友に因縁と繋りを持ちつゝ母校愛の枢軸に回つて転回せんとするときこの学生センスに絶大な讃辭を贈りその実現に努力する一人である。ローマは一日に

して成らずロードス島を飛び越える過去の苦難を生々と顧みつゝ今やローマ文化の組成にも匹敵すべき関大校友は過去の脱皮して一大飛躍を為す時機に際会していと考えられ、そこには学生諸君の校友復興の叫びが受け容れられると共に校友自身も積極的前進進行のスタートラインに立つた訳である。

校友となり校友会の有難さや母校の恩恵は何と云つても古い暖簾であり傳統の誇りであり先輩の多い頼母しさである。こうした感じは同じ校友仲間には於いても卒業年度を異にし環境を異にし生活状況によつて異なるであろうが常に入学校選定方の相談を受ける度毎に古い学校、先輩の多い大学を選べと云うのは若い者が社会に出て初めて味える事にして大学母校は心のオアシスであり校友は陰陽の現実的援助者である。昨日も同窓の大阪市議の前副議長をしていた大谷辰造君が来て、大阪で暮すのなら関大を以つて最大の利点があると云われた、その通りである。

吾々は昭和十一年五月に挙行された創立五十周年記念大会を契機として新たな自覚に立ち関大の在り方を真剣に研究し初めたのである。当時二万六千と称する大量の校友を擁する関西私学の雄関大に對する校友としての自覚が芽生えたのである、関大の独自性、自主性に対する思案が沸き出したのである、知名の学者教授陣に取囲まれた植民的依存本位の教職

陣營、巨額の財團資金を銀行に裏かせて生ずる利子増殖本位の経営方針、世襲的とも云える理事協議員の相互選出制度の封建性の護持、外来教授講師の優先的優遇措置等々に対する検討が校友有志に澎湃として起つた、時恰も戦時下であり戦力増強中央集権言論制限軍官支配の強大なる渦巻の中にあつて私学関大には学内刷新、専任教授の充実、寄附行為の改正経営の合理化等が叫ばれ校友会に於いては評議員会、常議員会、各種特別委員会や千里山学生会等でこれを主題として論議が重ねられ大学当局にその改革の針を向けた訳で当時の吉田理事長玉木専務理事矢口常務理事を困らせ、神戸学長正井学長をして校友会長兼職地位の板挟の途端に苦しめつ、経営の改革学園の刷新運動を続けて来た、昭和二十年の敗戦とアメリカンモンローイズムは校友教授学生三者一体の隔合連繫を増大し私学自治の強大確立運動に拍車をかけ宮島理事長第一次岩崎学長内閣の時代を過渡期として諸般の具体的解決に突入した。即ち

内閣の補助金助成金はなくなり政府の監督権は失われ私学自治の社会機構となつたので初めて四万数千の校友を対象に衆知を結集することになり校友ゲマインシヤフトの認識に到達したので遂に関大不変の憲法として護持された寄附行為の改正運動が校友と教授團の連合によつて着

手し理事會の採択となり大学経営が校友中心の経営に切換られ教授會も亦校友中心の風潮が芽生え関大ルネサンスの警鐘が鈍り響いたのである。

時を同じうして学制の改革なり。教育基本法学校教育法が公布され新制大学が誕生し更に私立学校法の制定公布に依て財團法人関西大学は学校法人に改組されその施行に際して寄附行為は根本的改変を実現し遂に現行寄附行為に見る如く大学議員である評議員中心の制度が樹立しこの評議員は殆んど校友であり又一部は校友以上に母校に貢献あり必要な人が選ばれ経営執行の最高議決議會が成立し又理事監事は学長を除けば原則として評議員会の公選によつて決定されることになり大学の民主経営の根本法が確立した、斯くて昭和二十七年九月に第一回評議員の公選がなされ、更に理事監事の選挙決定となつて現在の白川内閣が実現した、全国私学に稀れに見る校友経営の関大の現況は群る私立大学羨望の的である、これと云うのも七十年の古い歴史と五方校友の實在と先輩に多数の人材を擁する関大なるが故に外ならないことを忘却できない、

難であつた、待望の校友会名簿も不完全ながら昨年初頭に復刊され全国消息の鏡となつて重要な真価を發揮し学生就職にも大きな役割を果している、又これを基として卒業年度期会も殆んど結成され常時旺盛の活動が見聞されるに至つた、狭い国土に関大校友社会面が雄渾に動いている、快なる哉である、吾々は最近十五ヶ年間の先輩校友の努力の跡を顧み今日母校の経営組織、教学組織、設備と内容千里山学園天六学園を視望し或は武田第一号博士に切つた自家製学者の続出、海外研究派遣制度の再限、幼稚園から中学校、大学、修士博士両コースの大学院に至る一貫教育施設の壯麗や、建設委員会、学事委員会、給与厚生委員会就職幹事委員会、体育振興委員会倶楽部設置委員会七十周年行事計画委員会、財務委員会の十委員会制による綜合運営等の周到さも亦校友を中心とする公明輿論を把握する関大経営の独自性が旺盛している。

斯くて母校の体制は確立した、今や吾々は校友会自体の整備拡充を図らねばならない段階となつたのであるこれには老いも若きも一体となつて対策を講じ善処し全日本に躍動する関大校友社会を樹立せねばならない秋となつたのである昨秋の校友代議員総会に於いて従来一人であつた副会長制が三人に増員され更に常議員会に於いて岩崎学長と同期の近畿車輛副社長の三好万次先輩が第一助役格に久井関大専務理事が第二助役格にそして後輩の私が第三助役格として三副会長が実現し老壯青の三時代層を構成することになつた私の如き四十年代の副会長が関大校友会に生れることは未だ夢想だにしなかつた事であつた然しながら旧襟を脱皮し伸び行く関大校友会に新しい息を吹きとして生れた制度であると考えれば不思議はない固より私はその任として適役ではないがこの制度の意義は感じてゐる、只私としては昭和二十四年以来日本計理士会の副会長として昨年五月迄四年余を全国を駆け廻つたり或は東京に一年の三分の一を出張して中央官省や衆参両院議員相手の仕事をして来た経験を生かして今度は五方を超ゆる関大校友を対象に奉仕の仕事をする意義に徹しているの

設立進捗中の支部紹介

- 奥羽三県**
 平沢 農一 昭13 専二法 岩手県和賀郡土沢町二五ノ一二二(県庁職員)
 古川 忠質 明39 専法 岩手県和賀郡黒沢尻町(旅館業)
 佐藤 鶴松 大14 専法 青森市大野長島二七(青森検察庁次席検事)
 三宅 治郎 明44 専法 秋田市中長町三(弁護士)
- 東北三県**
 三浦 信一 昭11 専一商 山形市香澄町横町南一八ノ三(山形市庶務課)
 金谷 治 昭16 専二国 仙台市片平丁東北大学文学部研究室
 小泉 博 昭7 大法 郡山市細沼町六九(日本生命郡山支店長)
- 佐賀支部**
 平川 徳雄 大12 専法 佐賀市神野町二五八
 原 繁 昭17 大経 佐賀市佐賀県庁林務課長
- 長崎支部**
 山崎 良雄 昭23 大経 長崎市東浜町九一
 篠原 公生 昭12 専二経 長崎市城山町一丁目平和通八八号
 北村 徳太郎 推 薦 佐世保市福田町二二三
- 熊本支部**
 江 河 武 昭17 大法 熊本市春竹町八王寺三一三ノ一
 農林省熊本食糧事務所
 渡 辺 実 信 昭12 専二法 熊本市新町一ノ九六
- 関西甲種商業校友会** (大阪府大淀区長柄中通二ノ一二)
 関西大学第一中学校内
 理事長 三島 律夫 大8
 常務理事 高橋 節治 大8、同 中尾 善宣 昭5
 同 西村治三郎 大11、同 古市 実 昭14
 関大二商同窓会 (大阪府北区鳴尾町一〇)
 長柄金吾方 電福川一三九八
 会 長 長柄 金吾 二期
 副会長 逢坂 勝美 五期、同 行平百太郎 七期
- 関大一高同窓会** (吹田市垂水一四四)
 関西大学第一高等学校内
 会 長 一部 塚田 正則 昭25
 副会長 藤森 文夫 昭26
 会 長 二部 江川 吉光 昭24
 副会長 佐脇 利春 昭24
- 関大一中校友会** (大阪府大淀区長柄中通二ノ一二)
 関西大学第一中学校内
 会 長 生沢 憲二 昭23
 副会長 西川 省一 昭23

校友会入会式に就て

戦前は校友会入会式を、卒業式当日、大阪中央公会堂等で開催したものであるが、戦後、そのことは物資不足其他の悪条件に悩まされて廃絶された。

併し乍ら、新しく卒業する人達には校友会員たることを認識するのに、どうしても入会式(歓迎会)を復活することが必要である。

新旧会員の交歓で、校友会の内容を知り、その活動振りを多くの先輩から聞き卒業後いろいろと便宜を得ることまた多大であるから、出席することは誠に有意義である。

其際、校友会では新しく制定した会員章バッヂを会費等納入者に御渡しする。新卒業生が社会に出て会員章着用者が同窓の友であることを知り厚誼を得て就職、結婚、商取引其他のビジネスに就いて利益を享けること必然である。この様な意味に於て新しく卒業する人達は本年より復活する卒業式直後の校友会入会式に出席願いたい。

推薦校友とは

推薦校友は、学校法人関西大学密附行為の、第九章第卅五条第二号に該当する校友であつて、現在百八十一名おられますが、その推薦の方法は、地方支部又は職域会、同期会等より、校友会本部に申達し、理事会の承認を受けることになつております。

御 詫 び

◇支部、職域、同期生の各会の「たより」執筆者から写真を頂戴しましたが、いろいろの都合で登載出来なかつたことを御詫び申し上げます。写真は校友会本部の、それぞれの部門の備えとして永く保存させて頂きます。

昭和二十九年二月十五日発行
関西大学學報 第二六六號
 大阪府大淀区長柄中通二丁目二番地
 編集兼 久 井 忠 雄
 発行人 久 井 忠 雄
 大阪府北区川崎町三七
 印刷所 株式会社 ナニワ印刷所
 電話福川(七三〇二番) 三一九三番
 大阪府大淀区長柄中通二丁目
発行所 関西大学學報局
 電話福川(35)七五六番 振替大阪二六七二番
 一年誌代実費三〇〇円(送料共)

關西大學校友會會則

(昭和二十九年一月二十八日常議員會決定案)

第一章 總 則

第一條 本會は關西大學校友會と名づける

第二條 本會は母校關西大學の隆盛を図り會員相互の交誼を厚くすることを以てその目的とする

第三條 本會は其の目的を達するために左の事業を行う

- 一、學報の配付
- 二、會員名簿の発行
- 三、會員の懇親並びに慶弔

第四條 本會は本部を關西大學本部内に置き支部を必要な地に設ける

第二章 會 員

第五條 左の資格を有するものを會員とする

- 一、學校法人關西大學の設置する學校又は其の前身である法人の設置した學校若しくは關西法律學校を卒業した者
- 二、前号の學校の役員、教職員及びかつてこれらの役職にあつた者
- 三、推薦校友

第六條 會員は毎年六月末日までに會費金參百元を納めなければならない
新入會員は入會と同時に金參百元を納めなければならない

第三章 役 員

第七條 本會に左の役員を置く

- | | |
|-------|------|
| 會 長 | 一 名 |
| 副 會 長 | 三 名 |
| 常 議 員 | 三十 名 |
| 代 議 員 | 若干 名 |

第八條 會長は總會で會員中からこれを推薦する

第九條 副會長は常議員會でこれを推薦する

第十條 常議員は代議員會で互選によつてこれを定める

第十一條 代議員は總會で會員中からこれを選出する

第十二條 本會支部の代表者はその任期中職務上これを代議員と認める

第十三條 會長は會務を統轄し總會・常議員會及び代議員會を招集し、その議長となる

第十四條 副會長は會長を補佐し會長に支障あるときはこれを代理する

第十五條 代議員會は左の事項を審議する

- 一、常議員の選出
- 二、その他重要な事項

第十六條 本會に顧問を置くことができる
顧問は常議員會の議を経て會長これを委嘱する

第四章 總 會

第十七條 定時總會は毎年一回これを開催する

臨時總會は常議員會が必要と認めたときこれを開く

第十八條 左の事項はこれを定時總會に提出しその承認を受けなければならない

- 一、前年度收支決算
- 二、財産目録
- 三、事業報告

第十九條 總會の決議は出席會員の過半数でこれを定める、可否同数のときは議長がこれを決する

第五章 會 計

第二十條 本會の経費は入會金、會費その他の収入を以てこれに充てる

第二十一條 本會の會計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月末日を以て終る

第六章 支 部

第二十二條 本會支部は支部規則會員の住所氏名及び職業等を本會本部に報告し常議員會の承認を得るものとする

第二十三條 本會支部には事務所を設け役員を置く

附 則

第二十四條 本會則は代議員會出席者の三分の二及び總會出席者の三分の二以上の同意がなければこれを變更することができない

關西大學天六學舎内
關西大學校友會

大阪市大淀区长柄中通二丁目十二番地

電話堀川(55)二〇〇七三番

振替大阪 五五五九四番

関西大学創立七十周年記念 拡充資金募集趣意書

わが関西大学は、明治十九年河内町の一隅に、大阪に於ける唯一の法律学校として開校したのであります。爾來六十有余年校友先輩の苦心と不断的努力に依つて目覚ましい發展を遂げ、今や一万数千の学徒を擁する私学の雄として、自他共に許す一大学園となりました。其の間幾多の俊英を輩出して、文化の向上、国家社会の進運に大きな寄与をなしたことは、われわれの深く喜びとするところであります。学園發展のために尽瘁せられたそれらの先輩各位に対しては深甚の敬意と感謝を捧げずには居られません。

日本は、漸く独立国家として出発しましたが、国家の前途は甚だ多難であります。わが国は今後、文化国家として世界文化に貢献すべきであります。またそれによつて友邦の信に応えなければなりません。そのためには、教育の振興こそ最も緊要な問題であります。

本校は、大学の崇高な使命を自覚すると共に、歴史と伝統に立脚して、よくその声価を揚げて参りましたが、真理の討究、学の実化という理想に向つて、益々邁進したいと思ひます。本学が新学制に基き、各大学にさきがけて、大学院を設置し、修士課程並びに博士課程を開講したのも要は、その意味において将来の飛躍的な發展を意圖したからに外なりません。

本学は時代の趨勢に鑑み、曩に五ヶ年計画を樹て、諸施設の改善充実に着手致しました。千里山における大学院、大学ホール、経済学部 商学部教室の増築等はその一環として既に竣工しましたが、なお計画中の事業で、しかも緊急を要するものが種々残されて居ります。即ち、使用上すでに危険な状態にある、千里山法学部 文学部学舎の改築、二部学生を收容するための天六学舎の増築、学生に対する施設の一部分として、千里山尚志館（学生食堂学友会部室）の増改築等ありますが、これらは逐次工事に着手し或は着工準備中であり、また教授研究室は、現在六十五室を有するに至つたのであります。その大部分は、臨時的なもので、更に近代設備を持つ研究室の新築を構想中であり、これらが竣工の暁には学園は全く面目を一新すると思ひます。

こうした外観の整備と相俟つて、特に重要なものは、大学の真価を決する教授陣容の充実にあります。二十八会計年度においては教授十名、助

教授八名、専任講師五名、助手十七名の増員を予定しましたが、その大半はすでに補充致しました。

教職員待遇については、常にこれが改善に努め、本年度においても相当額の増俸を実施致しました。しかしながら現下の經濟状態に即応すべき所期の目的を十分に達し得て居ないのを遺憾と致します。

教授陣容の充実に共に、研究用図書完備も大切であります。この点についても目下鋭意努力して居ります。

さて、上記の事柄は、いづれも緊急を要するもののみと考えられますが就中、学舎の増改築は、最早一日も遷延を許しませんので、これを早急に達成するため、昭和三十年度に創立七十周年を迎えるのを機会に、その記念事業の一部として実施することに致しました。しかも、建築費だけでも総額約三億円を要するものであります。戦後の經濟的混乱により本大学法人の經理も、種々困難な事情を加えており、従つて事業遂行の資金は、止むを得ず關係者各位その他の御援助により御繰出を仰がねばならぬ実情にあり、

大学の生命は不朽であります。が、学園の生々發展を希うためには、各位の学園に寄せられる深い愛情と熱意に俟たねばなりません。翼くは、学園の繁栄を念願する各位の御賛同を請ひ、この七十周年記念事業の完成を期したいと思ひます。各位の御賛同により本事業完成の暁には、学園はさらに新たな基盤に立つて飛躍的な發展を期し得ることを信じます。何卒御協力の程切に願ひ上げます。

昭和二十八年十一月

関西大学学長 岩 崎 卯 一
関西大学理事長 白 川 朋 吉

創立七十周年記念事業学舎増改築概要

- 一、工事費総額約三億三千五百万円
- 二、工事概要
- (一) 千里山法学部学舎改築(鉄筋コンクリート造)
 - 三階建 二千六百六十八坪 工費約二億六千四百万円
 - (二) 天六学舎増築(鉄筋コンクリート造)
 - 五階建 三百七十八坪 工費約三千万円
 - (三) 千里山尚志館増改築(木造)二階建 三百二十一坪 工費約六百万円
 - (四) 関西大学第一高等学校の千里山外苑への移転新築(一・二階鉄筋三階木造) 三階建 七百八十五坪 工費約三千五百万円